楽しかった思い出

W校　四年三組
高本　英奈

私は六月に、日本に一時帰国しました。なぜかというと、私のおじがけっこんすることとなり、私の家族が参加することになったからです。

私はその話を母から聞いた時、とてもびっくりしたし、とてもうれしくなりました。なぜなら、私は一年も会っていなかった親せきや、親友と会えることができるからです。

私は日本に行く数日前から、とてもはりきってしたくをしました。

日本に着くと、私の家族は父の方のおばあちゃんとおじいちゃんのい

16×16

る愛媛県に、二泊しました。そこにいる間は、毎朝五時に起きて、母といっしょに、松山城にジョギングをしながら行きました。そこに着くと、ストレッチをし、ながめを見てから帰りました。ながめはきれいだったので、おどろいてしまいました。最後の日には、おいしいみかんゼリーと、日本のおかしをもらうことができたので、とてもうれしかったです。

次の日には東京で一泊しました。ようち園の先生にも会えたので、うれしかったです。夜には仲のいい友達と親友と遊園地に行きました。いっしょにごはんを食べてから、遊んで別れました。

16×16

最後の一週間は、母の方のおばあちゃんと、おじいちゃんのいる、青森県に泊まりました。そこでけっこん式がおこなわれるので、私は前日、とてもワクワクしていました。けっこん式にはたくさんの人がいて、とてもびっくりしました。食べ物もおいしかったです。

私の家族は、出し物をするときにダンスをしました。

「とても上手だったね。」

とみんなに言われ、とても練習をして、がんばったかいがあったと思いました。けっこん式が終わった後は、家に帰ってねました。

その後は四日間だけ青森県に泊ま

16×16

てから、私の家族はアメリカに帰りました。とても楽しかったので、また日本に行きたいなと思いました。

16×16

ナンバーワンのお父さん

W校　四年三組
パテル　杉浦　玲愛

わたしのお父さんは、家族のナンバーワンです。お父さんは家族の中で一番せが高くて、一番よく食べます。お父さんは、だれよりも早く起きて家族のために一生けん命働いてくれます。そして、お父さんは家族の中で一番おもしろいです。お父さんは日本語があまり得意ではありません。だから、日本語で話す時に、発音がおかしく聞こえます。また、日本語でおもしろいことを言うので、わたしはいつもよく思いついたなと感心してしまいます。例えば、お父

16×16

さんは夕食を食べる時に、「いただきます」ではなく、

「いたまきだーす」。

と言ったり、食たくに魚が出た時は、お先にいただきますではなく、

「おさかないただきまーす」。

と、じょうだんを言うので、わたしたちは大笑いしてしまいます。

しかし、お父さんが一番なのはおもしろさだけではありません。お父さんが家族の中で何より一番なのはわたしたちをしかる時です。お父さんがおこると、声がすごく大きくなり、顔はたちまちおこったゴリラの様になるので、わたしはお父さんがしかると思わず、泣きそうになって

しまいます。

ある日、わたしが妹に意地悪をしていると、お父さんはイスにすわったまま、真けんな表情でわたしを見ながら、

「やめなさい。妹に億しくしなさい。」

と、しかりました。最初わたしは、ふてくされていましたが、それから反せいし、なぜお父さんがおこったのか考えてみました。妹に意地悪していると、妹はわたしのことを、さらいになってしまうかもしれません。そうなると、しょうらいわたしがこまった時に、だれにも助けてもらえない。そう思うと、お父さんがわたしをしかるのは、深い意味があるこ

とに気がつきました。しかられるのは、わたしのことを考えてくれているからだ。お父さんはわたしのことが大好きなんだと感じました。

わたしのお父さんは家族のナンバーワンです。何よりわたしはお父さんのことが一番大好きです。

アメリカの観光地

W校　四年三組
中川　椋太

二〇一八年八月四日から八月九日までの五日間、僕は、モンタナ、ワイオミング、アイダホ、ユタの四つの州で、観光地を見ました。合計約十の観光地を見てまわりました。今回は、その観光地でおこった出来事さらに、日本の観光地と、アメリカの観光地の、どういう点がちがうかということについて書きます。

僕の印象に残った観光地は、全部で四つあります。一つ目は、温泉です。地下にあるマグマの熱で、水が温められてその水がたまり、温泉に

なったものです。岩が大きな階段のようになって、短く広い滝のようになっています。上に行くと、山々の真ん中に、小さな町があり、絶景でした。近くにベンチと、もたれることのできる竹のさくのようなものがありました。僕と弟は、竹のさくのようなものにもたれて、母が、その写真を撮りました。それから昼ごはんを食べました。ポテトチップスなどの少々栄養のかたよるものですが、疲れていたので、とてもおいしく感じられました。それから、急な坂道を、速いスピードで駆け下りていき、車に戻りました。

二つ目は間欠泉です。間欠泉とい

うのは、間をおいて、水が噴き出す自然現象のことです。僕は本物の間欠泉を見る前に、間欠泉が出る場所の近くにある博物館のような建物で、どうやって間欠泉が出るのかを調べました。中に入って調べてみると、間欠泉は、マグマの熱が岩を通って地下水を温め、地下水は水蒸気となって他の地下水を押し上げ、それで水が噴き出すということが分かりました。この次は、本物の間欠泉を見に外へ出ました。五分ほど待つと、間欠泉が始まりました。水が浮き上がったと思ったら、たちまち高くなりました。周囲は水蒸気に囲まれて、水は見えませんが、水が高いという

ことは、周りの水蒸気の高さで分かります。最後には、間欠泉から出てくる水にも、ふれることができました。生温かい水でした。良い体験をしたと思いました。

三つ目は滝です。この滝を見に来たとき、最初に見たものは、とても深い谷です。その底に川がありました。下へ行くと滝が見えました。狭く長いので、とても流れが強く、迫力がありました。終点に着くと、滝はもう見えませんでしたが、途中で見えたので、とても満足した気分で、ホテルへ戻れました。

四つ目は登山です。とても大きな湖の周辺に、長いトレールがありま

す。トレールの途中、ボート乗り場があったので、そこからボートに乗って戻りました。

このような出来事の間にも、僕は、道などにごみが落ちていないのを不思議に思いました。この辺の道ばたに、コップ一つ落ちていたって、変ではありません。お父さんに聞くと、

「車の中ですませている。」

と言いました。

僕は、アメリカ人はかしこいなと、一瞬思いました。なぜなら、自然の中で捨てるより、家に持ちかえって捨てるほうが、自然にやさしいからです。日本人も見習わなければいけないと思いました。

新しい生活

W校　四年三組
森島　凛

私は、日本からアメリカへの引っこしについて書きます。なぜなら、今までは日本国内での引っこしで、海外に行ったことも、なく引っこしもしたことがなかったからです。

私が引っこしするのを聞いたのは三月で、お父さんから聞きました。びっくりしたけど、ニューヨークの写真を見ると少し楽しみになってきました。四月にはクラスのほとんどみんなが引っこしのことを知っていました。

六月から七月上旬はお別れ会やパ

16×16

ーティーをしてくれました。パーティーはとても楽しかったです。

七月中旬にいよいよ引っこしのタイミングになりました。アメリカに着くとお父さんが来ていました。会えてとってもうれしかったです。空港から家までは一時間くらいかかるのでそれまで車でねていました。家に着くとすごく家がかがやいて見えました。きれいでした。それから八月上旬まで時差ボケがあったり、初めてのことにびっくりしていました。ひまな毎日でした。

八月中旬から、ほ習校に通い始めました。一日目で何人か友達ができました。

九月上旬から、いよいよアメリカの学校が始まりました。先生の言っている言葉やクラスメイトの話は全くわからないけれど、友達はできました。クラスメイトに日本人がいたらいいなと思っていたのですが、クラスメイトには一人も日本人がいませんでした。しかも学年にも一人もいません。でもクラスメイトはいろいろ教えてくれるし、年上の日本人のコも、ときどき通やくしに来てくれます。このあいだは外国の友達をさそって家で遊びました。とても楽しかったです。

十月になると生活も学校もなれてきました。十月三十一日はハロウィ

ンです。とても楽しみです。他にもクリスマス、いろいろなイベントがあるのでワクワクしています。

アメリカでは現地の学校と日本の学校、両方いけるので日本語もわすれないし英語もわかるようになるのでうれしいです。今は、英語わからないのと思われるかもしれないけれど、がんばって英語を勉強して私も通やくする人になりたいです。私の目標は英語と日本語両方話せるようになることです。そうすれば、外国の友達とは英語で話し、日本の友達とは日本語で話す、そうなると最高な気分になれます。お父さんとお母さんに、私をここにつれて来てくれ

16×16

てありがとうという気持ちになりました。

日本の友達と別れるのは悲しかったけれど、また友達がふえるのはうれしいです。心からアメリカに引っこして来てよかったと思っています。

16×16

イーストチェスター五キロマラソン

W校　四年二組

ロドリッソ　亜論

九月二十日に、ぼくがすんでいる町のイーストチェスターで、五キロマラソンがありました。ぼくたちの家族は四人で初めて参加しました。

ぼくの友達のレオくんも、家族みんなで、参加すると知っていたので、スタート前にレオくんをさがしていました。一しょに走りたかったが、たかがんでいて見つかりませんでした。スタートの後に、レオくんはぼくの前を走っていると思ったので、がいっぱい走って前の方

16×16

に行きました。大人や子どもをたくさんぬきました。でもレオくんはまだんでした。

スタートしてすぐに、おなかがいたくなりました。いたくていたくて歩いてしまい、五十人ぐらいにぬかれました。と中で水を四こっていたので、三カップ飲みました。また走り始めるとレオくんの兄に会ったので、

「レオはどこ」

て聞いたけれど、分かりませんでした。ぼくは、がっかりしてゆっくりと走って、またたくさんの人にぬかれました。

まだ走り始めたばかりなのに、知らない人たちが、

「ユー・オールモスト・ゼアー」

と応えんしているのがおもしろかったです。

いつゴールなのか分からなかったけれど、後からあろんLOという声が聞こえて、ふりむくと、父でした。父を見たら、十倍元気が出ました。

父と一緒にゴールした後、また水を飲みました。前を見ると、しオくんが友だちとおしゃべりしていました。それしくて後ろからレオくんのかみのもをぐちゃくちゃにしながら

「レオ」

てきけびました。レオくんも、

「あろん」。

とうでをふり上げて言いました。レオくんは、一番先頭を走っていました。ぼくは、二十一分でゴールをしました。おなかがいたかったけれど、父や母、兄よりまわやかったです。みんなびっくりしていました。メダルはもらえませんでしたが、がんばりました。来年はレオくんと走りたいです。

次の日の朝、起きたら、足がすごくいたかったです。

ディズニーシー

W校　四年二組
菊地　由桂

私は、夏休みに家族でディズニーシーに行きました。私たちは、今年は暑いから来年にしようと考えていました。けれど、いきなりお父さんが、

「明日ディズニーシーに行こう」。

と言いました。母と姉と私は、

「えー」。

と言いました。けれど、お父さんは

「なにおどろいているの。行くなら明日しか行けないよ。明日はそんなに暑くないから」。

と言いました。私は夜おそくまでね

むれませんでした。なぜかというと、とてもワクワクしていたからです。

次の日、私達は、ぼうしをかぶり水とうを持って、朝の五時半に出発しました。駅までおばあちゃんに車で送ってもらいました。けれど、電車の中ではいすがあいていなかったので、立たなければなりませんでした。けれど、私はコックリコックリとねようとしていました。それは、ねむかったし、エネルギーをとっておくためです。

ディズニーシーには、たくさんの人の国まりがいっぱいあちこちにありました。私はびっくりしてしまいました。一番心にのこったのは、三

百六十度のジェットコースターでした。私は最初は、まあ大丈夫でしょうと思っていたら、とてもすごいスピードで走って、と中でけむりの中を三百六十度回りました。そのとたん、私は何が起こったのか分りませんでした。そのあとは、色々な所を遊び回りました。それから、私はたん生日プレゼントにお店でダッフィーのぬいぐるみを買ってもらいました。それもまたねむくてねむくてたまりませんでした。それもそのはず、とても動き回ったからです。けれど、とても

帰りも電車に乗りました。それもらかでした。

楽しかったです。また行きたいです。

16×16

日本からの友だち

W校　四年二組
藤澤　綾香

今年の夏、日本に帰国した友達がニューヨークに遊びに来ました。その友達は、キンダーからサードグレードまで同じ学校に通った友達です。かの女はとても明るく、前向きで、英語が上手な友達です。私は、かの女の明るいところが好きです。かの女が日本へ帰国した時は、とても悲しくて、なみだが出たぐらいです。

なぜこんなに悲しかったかというと、私は小さいころからいっしょだったからです。ずっといっしょだったのに、急に帰ってしまったので、とて

も悲しかったです。しかし、私は、
かの女もつらかったと思います。理
由は、かの女はアメリカ人
さなころからいたので、アメリカ人
の友達を私よりずっとたくさん作っ
ています。だから、たくさんの友達
と別れ、日本に帰らなければならな
かったのは、つらかったと思います。

かの女がニューヨークへ遊びに来
た時、私はとてもうれしくて、心が
おどりだしそうでした。そして、せ
いかくもあまりかわっていないので、
とてもなつかしい気持ちになりまし
た。私はこの夏、かの女とたくさん
遊びました。アスレチックでいろい
ろなコースをつなわたりをしたり、

16×16

お泊まり会でいっしょにねたり、たこ焼きを食べたり、バーベキューをたくさんの友達としたり、ピザもいっしょに食べました。

その友達は、仲の良い友達をアメリカでたくさん作っていました。私ももたくさんの友達を作りたいと思います。たくさんの友達がいる方が楽しいと思うからです。私は、日本からニューヨークまで約一年ぶりに遊びに来ても、すぐ周りに解けこむことができるかの女がすごいと思います。私もいつか日本へ帰る日がくるので、帰国後、ニューヨークに遊びに来ることがあったら、すぐにたくさんの友達と打ち解けて、たくさん

16×16

遊びたいです。この夏は、なつかしい友人と遊ぶことができて、まるでネックレスのようにきれいな思い出ができました。

16×16

わたしにとっての星

星　あろは
L I 校　四年二組

「じいじ、早く星見ようよ。」

わたしは、祖父をせかし、その日に買ってもらった星座ばんを手にし、祖父は、かいちゅう電灯を手に持って外に出た。妹もついて来た。わたしは、

「はなは、来なくていいよ、おじゃまんぼうだから。」

祖父がいいと言うので仕方なく妹を連れて来た。なぜ祖父といっしょに出てきたのかと言うと祖父は星座好きだからだ。空を見上げると三つくらいの星があった。

16×16

初めて星座ばんを使うので、なかなかどの星座かがわからない。祖父にどの星座かたしかめてもらった。すると祖父がすぐ夏の大三角を見つけた。祖父が、

「あれがベガ（こと座）こっちがアルタイル（わし座）で、これがデネブ（はくちょう座）」。

と教えてくれた。けれどいっきには、覚えられない。でも祖父がいい事を教えてくれた。実は、わたしの祖父は、もう引退してしまったけれど実は、校長生先だったのだ。祖父が四年生の生の先生だった時、おやじギャグで生徒に夏の大三角を教えていたと教えてくれた。わたし

16×16

にもそのおやじギャグを教えてくれた。

「デネブは、へがデネブ。べがは、ことをべがべがとひく。アルタイルは、わしの家にもタイルがアルタイル」。

と言うのだ。わたしは、しばらくそのおやじギャグを口にしていた。

「きもだめし、しようから」。

祖父がおどす。今わたしと妹、母祖父、祖母、母の姉といっしょにちょ。

てちいヴィラに来ている。花火の後でニつのグループに分かれた。わたしは、祖父と、母の姉といっしょにヴィラに帰るとちゅう、

「見て見てすごいよ!!」。

16×16

母の姉が言った。わたしはなんだろうと思い、辺りを見回した。しかし、なにもすごい物はない。わたしは、ふと空をみた。息を飲んだ。

そこには、しんじられないほどたくさんの星空が広がっていた。雲一つないきれいな満天の星空をしばらくだまって見ていた。今までに見たことのないその絶景におどろきすぎて口がきけなかった。あまりにもすごすぎて。

「すごい。。。」

としか言えなかった。すべての星が青く、いつも見ている月の大きさくらいに見えた。しばらく祖母に思ったことをペラペラペラペラ話した。

16×16

しばらくして、母の姉が、

「早くしないと星が見えなくなるからうじいじた達に伝えて」。

わたしは、暗中一人で行くのはこわかったが、祖父や母に満天の星空を見せてやりたかったので、急いでヴィラへもどっていった。祖父達は、帰って来たけれど、

「もうくもっていて見えなかった」。

と言った。

その夜祖父がヴィラに来る前にいっしょに買ってくれた本を読んだ。しかし、大人用なので分からない漢字がある。わたしは、次に本を読む時も漢字が読めるように祖父といっしょにわからなかった漢字や思ったことを

を書いた。

ある本に昔の人は星を使って季節を調べていたと書いてあった。そういう星とのつながりは今はもうないけれど、宇宙のどこかに地球のような星をみつけられるかもしれない。わたしは、いつか宇宙飛行士になりたいなと思った。

16×16

①

いたいけど、勝ちたい

W校　四年一組

ウォーカールークがずき

ぼくは、運動会がすごく楽しみだった。宿題で「運動会でがんばりたいこと」の作文を書いた。毎年赤組が勝って、白組が負ける。四年一組は白組だったから、今年は勝てるように、がんばりたいことを書いた。

運動会の前の日、現地校のプレイグラウンドで友達と遊んでいた時、二人で転んで、友達がぼくの上に乗っかってきて、頭、うで、おなか、足を思いっきりぶつけた。いたくて、足をひきずって帰った。

次の日、運動会の朝起きると、全

身がいたくて動かない。うでは上がらないし、足とおなかがいたい。気持ち悪くて、朝ごはんも食べられない。ママが、

「運動会、お休みする？」

と、聞いた。

「行きたい。」

と、言った。でも、あっちこっちいたいし、気持ち悪い。

学校に着いた。

「あ、メガネわすれた。」

目も見えない。この日のじゅぎょうは、すわって聞いていただけ。ホワイトボードは見えないし、手がいたくて、ノートも書けなかった。ママがむかえに来て、

「どうする？」

と、また聞いた。

「行きたい。」

と、また答えた。でも走れるかな。

みんなでおべんとうを食べた。食よくはなかったけど、おなかはすいてたからちょっとだけ食べた。そしたら元気が出てきた。クラスのみんなとすわって運動会が始まった。とうそうは足がいたかったけど、きょうそうは足がいたかったけど、がんばって走った。台風の目は、円の一番外側だったから、いっしょうけんめい走った。つな引きは、みんなで力を合わせてがんばった。いたいけど、勝ちたい。ぼくがやっていない他の時は、大きな声で白組のお

④

うえんをした。「運動会でがんばりたいこと」の作文に書いた事を全部やったら…やったあ！　白組が勝った！　みんなでジャンプするくらいうれしかった。

16×16

ぼくのしゅみ

W校　四年一組
松本　維吹

ぼくがまだ日本にいる時は、かぶと虫やくわがた虫が、とても好きでした。だから、虫さがしや、飼育することがしゅみでした。けれど、アメリカに転きょんすることになって、カブト虫やクワガタ虫を友達にあずけることになりました。

アメリカでも、こん虫を採れると思ってたけど、全然とれませんでした。とほうにくれたぼくは、別のしゅみにかえることにしました。それは釣りです。理由は三つあります。

一つ目は、げんち校であった友達

16×16

が、とても釣りがうまかったからです。その友達のすがたを見て、いいなと思ったから、釣りが好きになりました。

二つ目は、この前はじめて、小さな魚が、釣れたからです。釣れた時はとてもうれしかったです。ほかの友達も、釣りがすきになったので一緒にやって、いっぱい釣りたいです。

三つ目は、魚が釣れたら、その後その魚をみんなで食べることができるからです。ぼくのお父さんや、つりがうまい子のお父さんがさばきます。自分で釣った魚は、とてもおいしかったです。

ぼくはまだ、小さい魚しか釣れて

いないけど、いつかマグロやさけなどの大物を釣りあげたいです。

ぼくにとっては、まだこん虫もすきだけれど、釣りもすきになりました。

16×16

やっと勝てた運動会

W校　四年一組

大東　かおる子

九月十五日は、ほ習校の運動会でした。また赤組が勝つに決まってる。いつも赤が強くてつまんないなと思いながら、私は会場へ向かいました。

運動会が始まりました。最初は四年生のかけっこです。一位でゴールする子のほとんどが、白のはちまきをつけているのに気付きました。一位の子達はにこにこしながら、とてもうれしそうにしていました。私も一位になってみたい。白組だって勝てるチャンスがあるかもしれないと思って私は、はちまきが落ちないよ

16×16

うにきつくしばってスタートライン
に立ちました。一位か二位を目
指していたけれど、三位になってし
まいました。とくいな水泳だったら
一位をとれたかもしれないと心の中
で思ってしまいました。

次の種目は台風の目です。毎週練
習した成果が出たのか、みんな速く
て、つまずくこともなくスムーズに
きょうぎは進んでいきます。

「しゃがんで。」

「つめて。」

などと、みんな口々に声をかけ合い、
二位でゴールすることができました。
今年は白組が勝つかもしれないと思
いながら、せいいっぱいがんばりま

した。

空に雲がなくなって、カンカン照りの中、いよいよみんながんばった結果を発表する時になりました。私の心ぞうがドッキン、ドッキンと動いているのを感じました。赤組、そして白組の点数が発表されました。私達は、おもいっきりジャンプして、よろこびあいました。そう、私達が勝ったのです。私の心はうれしさでいっぱいになりました。本当に、本当にうれしかったです。

16×16

しょっぱいたん生日

L工校　四年一組

ま　沙良

今年のたん生日はわすれられない思い出になりました。私のたん生日は、夏休みの間にあるので、毎年日本で祝っています。日本には、いとこのさきがいます。年は五さ。ようち園に通っています。

七月二十六日、たん生日当日、みんなでレイクタウンに行きました。そこで昼ごはんを食べ、祖父母にプレゼントを買ってもらいました。たん生日ケーキを買う時、私はチョコレートケーキがほしかったけれど、さきは、

16×16

「いちごケーキがほしい。」
と言いました。けれど、祖父母が、
「さらのたん生日だから。」
と言って、チョコレートケーキを買ってくれると、さきはいじけてしまいました。

夜、お祝いの時間になって、ケーキにろうそくを立てようとすると、さきが、
「さきは六さいになるからふーする。」
と言いました。私は何言ってるのと思いました。さきのたんじょう日は十二月です。さきは私のた生日なのに、自分のたん生日にしようとしていました。私は不公平だと思いました。さきは一人っ子だから、自分の

たん生日は一人じめする事ができます。私はおこってさきに言いました。

「私のたん生日でしょ、さき。自分のたんじょう日にえーすればいいじゃん。」

その時、姉のえみりが、

「やらせればいいじゃん。あんたお姉ちゃんでしょ。」

と言いました。私はえみりのひどい言葉を聞いて、思わず泣いてしまいました。すると母が、

「さき、今日はさらの一年に一度のたん生日なの。わがまま言わないの。そして、えみりに向かって、

「あなたもよけいな事言わないで。」

と言いました。そうしたら、さきが

泣き出して、結局私だけがろうそくの火を消して、みんなでケーキを食べました。

私がこのたん生日をわすれられない理由は、私が初めて泣いたたん生日だったからです。あまいケーキのある、しょっぱいたん生日でした。

16×16

夢のかなえ方

L工校　四年一組
實光　ノア

学校のバスケットボールチームの選ばつがありました。ぼくは、本当にバスケットボールチームに入りたかったのでアフタースクームや公園で毎日練習をいっぱいしました。

最初のテストは、ボールをきちんとコントロール出来るかというテストでした。このテストは、ぼくたって本当にかんたんでした。

最初のテストが終わってから二回目のテストは、シュートだと発表がありました。だがその日は、長い間練習しました。

二回目のテストの日、ぼくは、ドキドキしすぎで手にたくさんあせが出て、ちょっと気持ちが悪くなりました。テストが始まり、ぼく達は、二列にならびました。一列目は、ツーユートをして二列目は、ボールを受け取りました。七つツーユートを打った全部のボールがバスケットに入りました。これでチームに入れるという自信がわきました。

最後のテストは、試合でした。五人づつ二つのチームに分かれてしましたが、十分の試合で二つのツーユートを外してしまいました。本当に悲しくて、心がドンドンしているのを感じました。もうチームに入れない

と思いました。

次の週の月曜日がチームメンバーの発表でした。でもけっきょく、その日は、ありませんでした。発表を待っている間、体がずっと動いて止まりませんでした。ペンをかちゃかちゃしたりびんぼうゆすりをしたり落ちつきませんでした。

その次の日、チームメンバーの発表がありました。ろう下に選ばれた紙を見つけました。ぼくは、はり紙の前で友達に分からない様に小さくガッツポーズをしました。早く家に帰ってお父さんとお母さんに知らせ

たかったです。

この経験からぼくは、夢があってがんばって練習を毎日続けたら夢は必ずかなう事が分かりました。ぼくは、大きくなったらプロ野球選手になりたいと思っています。だから毎日がんばって練習をしています。